



はばたき

学力・学習状況調査結果報告 特集号
小倉中央小学校通信

目指す児童像 ☆自ら学び考える子ども

☆心身ともにたくましく健康な子ども

12月2日 第11号 ☆礼儀正しい子ども

発行所 北九州市立小倉中央小学校 小倉北区堺町二丁目4番1号 TEL 093-521-1079 発行者 校長 日高辰司

朝夕の気温差が大きく、インフルエンザの流行など、体調管理が大切な季節になりました。日暮れも早くなり、夕方を過ぎると薄暗くなってきます。

2学期も終わりを迎え、学習発表会や連合音楽会、陸上記録会、社会見学等、行事を立派にやり遂げる毎に子どもたちは大きく成長しているように感じます。

学校通信『はばたき』、今回は、4月に行われました「全国学力・学習状況調査」の結果と今後、本校が重点的に取り組む内容についてお知らせ致します。

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

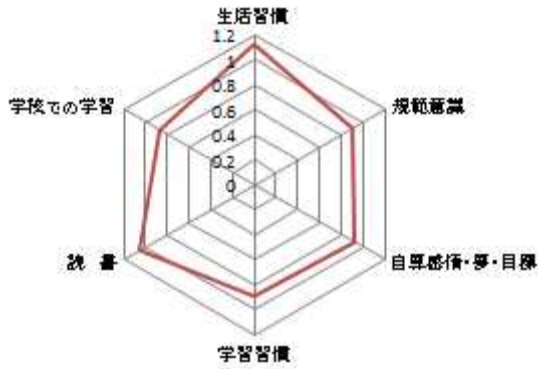
学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも『小倉中央小家庭学習カード』などを活用され、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリ	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」領域の問題は、全国平均正答率を上回っている。 「話す・聞く」、「言語事項」の領域は、全国を下回っている。 「読むこと」領域の選択式の問題は、正答率が高い。 漢字の読み書き、ローマ字の読み書きの能力が定着しておらず、無解答率も高い。 	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 「話す・聞く」領域の問題、「読むこと」領域の問題は、全国平均正答率を大きく下回っている。 グラフを基に分かったことや自分の考えを書く問題は正答率が高い。 質問の意図を捉えたり、話の展開に沿った質問を考えたりする問題の正答率が低い。 	下回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を下回っており、特に「量と測定」領域の正答率が低い。 小数の加法の計算、直方体における面と面の位置関係は、十分に理解している。 除法における計算の確かめの方法、単位量あたりの大きさの求め方は定 	下回っている

	着度が低い。	
算数B	<ul style="list-style-type: none"> • どの領域においても全国平均正答率を下回っている。 • 記述式の問題については、無解答率が全国を大きく上回っている。 • どの領域においても、短答式の問題では全国平均正答率を上回っているものが多い。 • 式の意味や考え方の理由を説明する問題は、正答率が低い。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



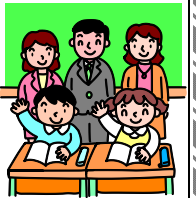
質問紙調査の結果分析

- 読書が好きな児童は、昨年度に引き続き全国平均正答率を上回っており、朝の読書活動や音読の宿題（毎日実施）の成果が表れているといえる。
- 自分のよさを認めるセルフイメージが低い。友達のやさしさや友達への感謝の気持ちを言葉で表す「ハッピータワー」の取り組みを工夫する必要がある。
- 計画的に学習をしたり、自分で課題を見つけて学習したりする児童が少ない。また、授業中に友達と話し合ったり、自分の考えを説明したりすることを苦手と感じている児童が多い。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

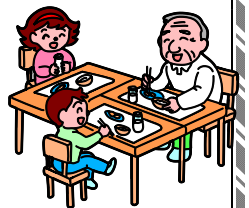
① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 朝の読書活動や音読の宿題は、今後も全校で統一して実施する。
- 1時間の授業の中に、自分の考えを書く活動、友達と話し合う活動を必ず取り入れるように全学級の授業を改善していく。
- 音読暗唱ブック「ひまわり」の音読について、指導方法や実施の仕方を工夫する。



② 家庭生活習慣等に関する取組

- 各教科の学習において様々な人と交流する機会を設定したり、小中連携の取り組みを推進したりすることで、夢や希望をもって生活しようとする態度を育てるとともに、自己肯定感を高める。
- 学級懇談会や学校・学年・学級便りを通して、保護者に向けて家庭学習の大切さを発信していく。学級では家庭学習名人コーナーを作るなどして、よりよい家庭学習の仕方について具体的に指導する。



4. その他

学力の定着のためには、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしつつ、連携して子どもたちを育てることが必要です。学校では、諸活動の見直しや授業の改善を図ります。

また、「子どもひまわり学習塾」や本年度から始まった「授業力向上ステップアップ事業」の学力向上推進教員とも連携して学力の向上を目指します。どうぞ、ご家庭でも家庭学習の重要さをご理解の上、学習習慣の定着にご協力ください。



